

令和8年の  
新春を迎えて



中津川市議会議長  
島崎 保人

# 年頭のごあいさつ

令和8年の  
年頭にあって



中津川市長  
小栗 仁志

明けましておめでとうございます。皆さまにおかれましては、健康やかに新春をお迎えのことと心よりお喜び申し上げます。

令和7年は、6月に伊勢神宮の第63回式年遷宮行事の一つである「裏木曾御用材伐採式」が中津川市で行われました。伝統の三ッ緒伐りて伐採された御神木は、市内を巡った後、県内各地に立ち寄りながら伊勢まで送られました。

多くの方に中津川市の伝統と豊かな森を知っていただく絶好の機会となり、この森林文化を後世に引き継いでいこうという思いをさ

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、輝かしい新春を健やかに迎えのことと、心からお慶び申し上げます。

さて、昨年は日本国内としては、大阪・関西万博、世界陸上の開催などで人と文化の交流や大きな経済への波及効果がありました。一方、ガソリン価格やコメ価格の高騰による家計の負担増加で、国民生活が大きな影響を受けた年となりました。

らに強くしております。

また、9月には待望の神坂スマートIC開通により市内各地へのアクセスが向上し、未来への期待が膨らみました。本年は、苗木城が築城500年を迎えます。この機に、神坂スマートICから馬籠宿、中山道経由で市街地へ、また、苗木城跡や夕森溪谷、付知峡へと、ぐるりと市内を巡る周遊観光を促進し、新たな取り組みの広がりにとつながってまいります。

さて、来たる令和8年度は、現在の市総合計画の最終年度です。現計画の総仕上げを行うとともに、令和9年度から始まる次期総合計画へとつなげる重要な年となります。

今、私たちの社会は人口減少や物価上昇など多くの課題を抱えています。そのなかでも、老朽化した公共施設の建て替えや広域化による新設など、大規模な事業が集中する時期を迎えます。持続可能な行財政運営には、未来のまちの姿を見据えて市民の願いをしっかりと把握したうえで、費用対効果を見極め、取捨選択に取り組む必要があります。そのため、スピード

中津川市では、20年に1度の伊勢神宮式年遷宮に向けた「裏木曾御用材伐採式」が執り行われ、「なかつがわ御神木祭」に市を挙げて取り組みました。

また、神坂スマートICが開通し、さらなる観光誘客の促進や、高速道路のアクセス向上、災害時に有効に機能するネットワークの確保ができるようになりました。

本年は、中津川市が誇る天空の城「苗木城」が築城500年を迎えます。観光誘客に向け、さらににぎわいが生まれる取り組みを行なってまいります。

期待が膨らむリニア中央新幹線の開業は、2034年以降になるとJR東海が発表しましたが、中央新幹線岐阜県駅（仮称）工事および駒場トンネル、瀬戸トンネル、中央アルプストーンネル工事などのリニア工事と並行しながら、駅周辺土地区画整理事業や東濃東部都市間連絡道路などの関連道路整備をはじめ、リニアを活用したまちづくり構想の実現に向け、引き続き取り組みを推進してまいります。また、リニア中央新幹線対策特別委員会などにおいて、調査・研

感と柔軟性を持って組織と仕事のやり方を見直し、新たな発想で市民サービスの充実を図りたいと考えております。

市内ではリニア関連工事も着々と進み、これからの10年でまちの姿が大きく変わります。市民の皆さまが安心して生活できるよう、子育てや教育、暮らしを支援する事業を組み立て、次期総合計画に掲げる将来都市像「Wonderful Woods」をワクワクする森なかつがわの実現を目指し、暮らすほど、働くほど、遊ぶほど良いと思えるまちづくりへとつなげてまいります。

市民の皆さまのより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本年が皆さまにとりまして朗らかな一年でありますよう心より祈念申し上げ、新春のごあいさついたします。

究を重ねてきたところでありますが、今後も、国・県への強力な働きかけを市執行部とともに推し進めていく所存であります。

市議会といたしましては、「住んでみたい」「住んでよかった」「訪れたい」「訪れてよかった」と思えるまち、「安全・安心で楽しく暮らせるまち中津川市」に向けて、市民と議会の対話集会などを通じて、直接市民の皆さまの声を聞きし、政策の提言につなげます。より身近な議会、開かれた議会の実現を目指して、改革・活性化に引き続き取り組んでまいります。行政と市議会がさらに一丸となり市政発展のために尽力してまいりますので、今後とも皆さまの一層のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆さまの益々のご健勝とご多幸を心より祈念申し上げます。新年のごあいさついたします。